



報道機関 各位

国立大学法人東北大学

東北大学

次期部局長候補者の内定について

標記について、下記のとおり内定しましたのでお知らせします。

(1) 次期部局長候補者（発令予定日：平成26年4月1日）

氏名	新任役職名	任期	新・再	現役職名
佐藤 弘夫	文学研究科長	平成26年4月1日 ～平成28年3月31日	新任	文学研究科・教授
本郷 一夫	教育学研究科長	平成26年4月1日 ～平成27年3月31日	再任	教育学研究科長
秋田 次郎	経済学研究科長	平成26年4月1日 ～平成28年3月31日	新任	経済学研究科・教授
早坂 忠裕	理学研究科長	平成26年4月1日 ～平成28年3月31日	新任	理学研究科・教授
大内 憲明	医学系研究科長	平成26年4月1日 ～平成27年3月31日	再任	医学系研究科長
佐々木 啓一	歯学研究科長	平成26年4月1日 ～平成28年3月31日	再任	歯学研究科長
山口 雅彦	薬学研究科長	平成26年4月1日 ～平成28年3月31日	新任	薬学研究科・教授
金井 浩	工学研究科長	平成26年4月1日 ～平成27年3月31日	再任	工学研究科長
徳山 豪	情報科学研究科長	平成26年4月1日 ～平成28年3月31日	新任	情報科学研究科・教授
吉岡 敏明	環境科学研究科長	平成26年4月1日 ～平成28年3月31日	新任	環境科学研究科・教授
出江 紳一	医工学研究科長	平成26年4月1日 ～平成28年3月31日	新任	医工学研究科・教授
渡部 信一	教育情報学研究部長	平成26年4月1日 ～平成28年3月31日	再任	教育情報学研究部長
高梨 弘毅	金属材料研究所長	平成26年4月1日 ～平成29年3月31日	新任	金属材料研究所・教授
川島 隆太	加齢医学研究所長	平成26年4月1日 ～平成29年3月31日	新任	加齢医学研究所・教授
大林 茂	流体科学研究所長	平成26年4月1日 ～平成29年3月31日	新任	流体科学研究所・教授
今村 文彦	災害科学国際研究所長	平成26年4月1日 ～平成29年3月31日	新任	災害科学国際研究所・教授

(2) 退任予定部局長

大淵 憲一（文学研究科長）、大滝 精一（経済学研究科長）、福村 裕史（理学研究科長）、大島 吉輝（薬学研究科長）、亀山 充隆（情報科学研究科長）、田路 和幸（環境科学研究科長）、松木 英敏（医工学研究科長）、新家 光雄（金属材料研究所長）、佐竹 正延（加齢医学研究所長）、早瀬 敏幸（流体科学研究所長）、平川 新（災害科学国際研究所長）の各氏は、本学の部局長を任期満了により退任予定です。

※ 添付：次期部局長候補者略歴等

【本件に関する問い合わせ先】
東北大学総務部広報課広報係
電話：022 - 217 - 4977

次期文学研究科長候補者の略歴等

(ふりがな) さとう ひろお

候補者名：佐藤 弘夫

任 期：平成26年 4月 1日～平成28年 3月 31日 (新任)

生年月日：昭和28年 5月 2日 (満60歳)

出身地：宮城県伊具郡丸森町

部 局 名：文学研究科

所属専攻・学科名：文化科学専攻

講 座 (部 門) 名：日本文化学講座

専門分野(専攻)名：日本思想史専攻分野

略 歴：

昭和53年 3月	東北大学大学院文学研究科博士課程前期2年の課程修了	
昭和53年 4月	東北大学文学部附属日本文化研究施設助手	
昭和60年 4月	盛岡大学文学部講師	
平成 2年 4月	盛岡大学文学部助教授	
平成 4年 4月	東北大学文学部助教授	
平成12年 4月	東北大学大学院文学研究科助教授	
平成12年11月	博士(文学)(東北大学)	
平成13年 4月	東北大学大学院文学研究科教授	
平成18年 4月	東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻長	(平成20年3月31日まで)
平成21年 4月	東北大学大学院文学研究科歴史科学専攻長	(平成22年3月31日まで)
平成23年10月	東北大学ディスティングイッシュトプロフェッサー	(現在まで)
平成24年 4月	東北大学大学院文学研究科文化科学専攻長	(現在まで)
平成24年 4月	東北大学学術資源研究公開センター史料館長	(現在まで)

主な研究業績：

[学術論文]

1. 「論理・精神・コスモロジー」『日本の哲学』13号、2013年
2. 「江戸の怪談にみる死生観」『死生学年報』2013年度号、2013年
3. 「記録される思想／流通する思想」『岩波講座日本の思想』2、2013年
4. “The Emergence of SHINKOKU(Land of Gods) Ideology in Japan” Buddhism and Nativism、Brill、2013年
5. 「本地垂迹の近世」『「神仏習合」再考』勉誠出版、2013年
6. “Where to next for Shinkoku thought?” Contemporary Japan 25、2013年
7. 「崇り・治罰・天災—日本列島における災禍と宗教」『宗教研究』373号、2012年
8. “Kami that Beckon from the Far Shore” Bulletin of Death and Life Studies 8、2012年

9. 「総論 古代の思想」『日本思想史講座』 1 古代、2012年
10. 「本地垂迹」同上
11. 「天皇像の変容—頭—の歴史学から冥頭の歴史学へ」『冥頭論』法藏館、2012年
12. 「中世「仏教」文明の形成と君主権」『「仏教」文明の受容と君主権の構築』勉誠出版、2012年
13. 「親鸞の聖徳太子観」『中世文化と浄土真宗』思文閣出版、2012年
14. 「未来予知の作法」生活と文化の歴史学1 『経世の信仰・呪術』竹林舎、2012年
15. 「時を湛えた空間—歴史学における「空間」の発見」『建築遺産 保存と再生の思考』東北大学出版会、2012年
16. 「彼岸に誘うカミ—日本の浄土信仰におけるイメージとヴィジョン」『死生学研究』16号、2011年
17. 「アマテラス神話の中世」『季刊東北学』27号、2011年
18. 「中世における神観念の変容」『中世神話と神祇・神道世界』竹林舎、2011年
19. “Changes in the Concept of Mountains in Japan” Cahiers d'Extrême-Asie 18、2011年
20. 「死者と出会う場所」『生と死への問い』東北大学出版会、2011年

著 書:

1. 『日本思想史講座』（共編）1～4巻、ぺりかん社、2012・13年
2. 『岩波講座日本の思想』（共編）1・2・4・5・6巻、岩波書店、2013年
3. 『ヒトガミ信仰の系譜』岩田書院、2012年
4. 『日本列島の死生観』（韓国語）図書出版ムン・ソウル、2011年
5. 『日本中世の国家と仏教』歴史文化セレクション、吉川弘文館、2010年
6. 韓国語版『概説日本思想史』ノンヒョン社・ソウル、2009年
7. 『立正安国論 全訳注』講談社学術文庫、2008年
8. 『死者のゆくえ』岩田書院、2008年
9. 『神国日本』ちくま新書、2006年
10. 『起請文の精神史』講談社選書メチエ、2006年
11. 『概説日本思想史』（共編）ミネルヴァ書房、2005年
12. 『日蓮』ミネルヴァ書房、2003年
13. 『霊場の思想』吉川弘文館、2003年
14. 『偽書の精神史』講談社選書メチエ、2002年
15. 『アマテラスの変貌』法藏館、2000年
16. 『神・仏・王権の中世』法藏館、1998年
17. 『鎌倉仏教』レグルス文庫、第三文明社、1994年
18. 『日本中世の国家と仏教』吉川弘文館、1987年

次期教育学研究科長候補者の略歴等

(ふりがな) ほんごう かずお

候補者名：本郷 一夫

任期：平成26年 4月 1日～平成27年 3月 31日（再任）

生年月日：昭和30年 1月 4日（満59歳）

出身地：埼玉県さいたま市

部局名：教育学研究科

所属専攻・学科名：総合教育科学専攻

講座（部門）名：人間発達臨床科学

専門分野（専攻）名：発達心理学

略 歴：

- 昭和59年 3月 東北大学大学院教育学研究科教育心理学専攻
博士課程後期3年の課程 単位修得退学
- 昭和59年 4月 東北大学助手教育学部
- 平成 2年 9月 鳴門教育大学学校教育学部講師
- 平成 4年 4月 鳴門教育大学学校教育学部助教授
- 平成 8年 8月 東北大学教育学部助教授
- 平成12年 4月 東北大学大学院教育学研究科助教授
- 平成14年 4月 東北大学大学院教育学研究科教授
- 平成24年 4月 東北大学大学院教育学研究科長・教育学部長

主な研究業績：

[研究論文]

- 本郷一夫他 2006 3歳児健康診査におけるフォローアップ児の特徴に関する研究
—1歳6か月健康診査、3歳児健康診査時における問診票と簡易発達検査との関連—。
小児保健研究、第65巻第6号、806-813
- 本郷一夫他 2007 保育の場における「気になる」子どもの理解と対応に関するコンサル
テーションの効果。LD研究、第16巻第3号、254-264
- 本郷一夫 2013 震災と子ども —東日本大震災後の保育所の子どもと保護者の姿—。
家族心理学年報 31、160-170

著 書：

- 本郷一夫編著 2008 『子どもの理解と支援のための発達アセスメント』、有斐閣
- 本郷一夫編著 2010 『「気になる」子どもの保育と保護者支援』、建帛社
- 本郷一夫・金谷京子編著 2011 『臨床発達心理学の基礎』、ミネルヴァ書房
- 本郷一夫編著 2012 『認知発達のアンバランスの発見とその支援』、金子書房

次期経済学研究科長候補者の略歴等

(ふりがな) あきた じろう

候補者名：秋田 次郎

任期：平成26年4月1日～平成28年3月31日（新任）

生年月日：昭和34年3月14日（満54歳）

出身地：京都府京都市

部局名：経済学研究科

所属専攻・学科名：経済経営学専攻

講座（部門）名：現代経済講座

専門分野（専攻）名：国際金融論

略歴：

昭和57年3月	京都大学工学部金属加工学科卒業	
昭和60年3月	京都大学法学部卒業	
昭和62年3月	京都大学大学院経済学研究科修士課程修了	
平成4年6月	マサチューセッツ工科大学経済学大学院修士課程修了	
平成5年3月	京都大学大学院経済学研究科博士後期課程研究指導認定退学	
平成9年5月	ニューヨーク州立大学アルバニー校経済学大学院博士課程修了	
平成9年2月	科学技術振興事業団研究員	
平成10年4月	東北大学経済学部助教授	
平成11年4月	東北大学大学院経済学研究科助教授	
平成13年4月	東北大学大学院経済学研究科教授	
平成17年4月	東北大学経済学部経済学科長	（平成18年3月31日まで）
平成18年4月	国立大学法人東北大学教育研究評議会評議員	（平成20年3月31日まで）
平成18年4月	東北大学大学院経済学研究科副研究科長・経済学部副学部長	（平成19年3月31日まで）
平成19年4月	東北大学大学院経済学研究科副研究科長・経済学部副学部長	（平成20年3月31日まで）
平成22年4月	国立大学法人東北大学総長特任補佐	（平成23年3月31日まで）
平成23年4月	国立大学法人東北大学総長特任補佐	（平成24年3月31日まで）
平成24年7月	国立大学法人東北大学総長特別補佐	（平成25年3月31日まで）
平成25年4月	国立大学法人東北大学総長特別補佐	（平成26年3月31日まで）

主な研究業績：

- Preemption by Baseline, REVISTA INVESTIGACIÓN OPERACIONAL VOL., 32, NO.1, 1-11, 2011, <http://rev-inv-ope.univ-paris1.fr/files/32111/32111-01.pdf>（共著2名、査読有。）

- Incentives for Technology Development and Project Based Mechanisms: Case of Renewable Energy Project, Jordan Journal of Mechanical and Industrial Engineering, Volume 4, Number 1, Jan. 2010, pp. 29-34, (共著 2 名、査読有。)
- 「経済数学教育における接平面概念の利用—包絡線定理とオイラーの定理の幾何学的別証・図解について」、研究年報経済学、70 (1), (2009), 49-58、単著、査読有
- Technology development and project based mechanisms in international climate change policy, in 18th World IMACS Congress and MODSIM09 International Congress on Modelling and Simulation, Anderssen, R.S., R.D. Braddock and L.T.H. Newham eds., Modelling and Simulation Society of Australia and New Zealand and International Association for Mathematics and Computers in Simulation, pp. 2192-2198, 2009. (共著 2 名、査読有。)
- The Impact of Ex-Ante versus Ex-Post CDM Baselines on a Monopoly Firm in 18th World IMACS Congress and MODSIM09 International Congress on Modelling and Simulation, Anderssen, R.S., R.D. Braddock and L.T.H. Newham eds., Modelling and Simulation Society of Australia and New Zealand and International Association for Mathematics and Computers in Simulation, pp.2192-2198, 2009. (共著 2 名、査読有。)

著 書 :

- Effects of Alternative CDM Baseline Schemes Under Imperfectly Competitive Market Structure, in Game Theory and Policy Making in Natural Resources and the Environment, A. Dinar et. Al. ed., Routledge, (2008, April), (共著 2 名、査読有。)
- International Frameworks and Technological Strategies to Prevent Climate Change, Springer Verlag, 2003 年、共著、pp.66-96, pp.110-126.担当
- 「複雑系経済学とその周辺」、サイエンス者、2000 年 5 月、共著、第 10 章を佐和隆光氏と担当
- 「環境新時代への挑戦」、第一書林、2000 年 3 月、共著、第一部第三章 担当
- 「経済学の名著」、中央公論社、1989 年 8 月、共著、第 6 章、第 8 章、第 10 章、第 14 章、第 15 章 担当

次期理学研究科長候補者の略歴等

(ふりがな) はやさか ただひろ

候補者名：早坂 忠裕

任期：平成26年4月1日～平成28年3月31日（新任）

生年月日：昭和34年5月6日（満54歳）

出身地：宮城県仙台市

部局名：理学研究科

所属専攻・学科名：附属大気海洋変動観測研究センター

講座（部門）名：大気放射観測研究部

専門分野（専攻）名：気候物理学分野

略歴：

- | | |
|----------|-----------------------------------|
| 昭和63年3月 | 東北大学大学院理学研究科博士課程後期3年の課程修了 |
| 昭和63年4月 | 日本学術振興会特別研究員 |
| 平成2年4月 | 東北大学大学院理学研究科地球物理学専攻研究生 |
| 平成2年11月 | 東北大学理学部附属大気海洋変動観測研究センター助手 |
| 平成6年5月 | 東北大学理学部附属大気海洋変動観測研究センター助教授 |
| 平成7年4月 | 文部省学術調査官（併任、～平成12年3月） |
| 平成10年4月 | 東北大学大学院理学研究科附属大気海洋変動観測研究センター助教授 |
| 平成11年8月 | 東北大学大学院理学研究科教授 |
| 平成11年11月 | 国立極地研究所地球環境科学研究所（仮称）準備調査室教授 |
| 平成12年4月 | 国立極地研究所地球環境科学研究所（仮称）創設調査室教授 |
| 平成13年4月 | 総合地球環境学研究所研究部教授 |
| 平成16年4月 | 大学共同利用機関法人人間文化研究機構総合地球環境学研究所研究部教授 |
| 平成20年4月 | 人間文化研究機構総合地球環境学研究所研究推進戦略センター教授 |
| 平成20年7月 | 東北大学大学院理学研究科附属大気海洋変動観測研究センター教授 |

主な研究業績：

1. Kawamoto, K. and T. Hayasaka, 2011: Cloud and aerosol contributions to variation in shortwave surface irradiance over East Asia in July during 2001 and 2007. *Journal of Quantitative Spectroscopy & Radiative Transfer*, 112, 329–337.
2. Shi, G.-Y., T. Hayasaka, A. Ohmura, Z.-H. Chen, B. Wang, J.-Q. Zhao, H.-Z. Che, and L. Xu, 2008: Data quality assessment and the long-term trend of ground solar radiation in China. *J. Appl. Meteor. Climatology*, 47, 1006-1016.
3. Hayasaka, T., S. Satake, A. Shimizu, N. Sugimoto, I. Matsui, K. Aoki and Y. Muraji, 2007: The vertical distribution and optical properties of aerosols observed over Japan during ABC-EAREX2005. *J. Geophys. Res.*, 112, D22S35, doi:10.1029/2006JD008086.

4. Hayasaka, T., K. Kawamoto, G. Shi, and A. Ohmura, 2006: Importance of aerosols in satellite-derived estimates of surface shortwave irradiance over China, *Geophys. Res. Lett.*, 33, L06802, doi:10.1029/2005GL025093.
5. Iwabuchi, H. and T. Hayasaka, 2002: Effects of cloud horizontal inhomogeneity on the optical thickness retrieved from moderate-resolution satellite data. *J. Atmos. Sci.*, 59, 2227-2242.
6. Hayasaka, T., Y. Meguro, Y. Sasano, and T. Takamura, 1998: Stratification and size distribution of aerosols retrieved from simultaneous measurements with lidar, sunphotometer and aureolemeter. *Appl. Opt.*, 37, 961-970.
7. Hayasaka, T., N. Kikuchi, and M. Tanaka, 1995: Absorption of solar radiation by stratocumulus clouds: Aircraft measurements and theoretical calculations. *J. Appl. Meteor.*, 34, 1047-1055.

著 書 :

1. Hayasaka, T., K. Nakamura, and E. Im (eds.), 2012: Remote Sensing of the Atmosphere, Clouds, and Precipitation IV, Proceedings of SPIE, Volume 8523. CD-ROM.
2. 早坂忠裕, 岩渕弘信 (編集), 2011: 気象研究ノート 223 号「気象・気候学のための最新放射計算技術とその応用」, 日本気象学会, 183pp.
3. 中島映至, 早坂忠裕 (編集), 2008: 気象研究ノート 218 号「エアロゾルの気候と大気環境への影響」, 日本気象学会, 178pp.
4. 早坂忠裕 (分担執筆), 2007: 「エアロゾルの大気環境影響」 (編集: 笠原三紀夫, 東野達), 京都大学学術出版会, 361pp.
5. 早坂忠裕 (分担執筆), 2005: 「気象ハンドブック 第 3 版」 (編集: 新田尚, 野瀬純一, 伊藤朋之, 住明正), 朝倉書店, 1010pp.
6. 早坂忠裕 (分担執筆), 2002: 「大気の化学と地球環境」 (編集: 秋元肇, 河村公隆, 中澤高清, 鷺田伸明), 学会出版センター, 223pp.
7. Hayasaka, T., D. L. Wu, Y.-Q. Jin, and J.-S. Jiang (eds.), 1998: Microwave Remote Sensing of the Atmosphere and Environment, Proceedings of SPIE, Volume 3503, 454pp.
8. 早坂忠裕 (編集), 1996: 気象研究ノート 187 号「地球環境のマイクロ波放射計リモートセンシング」, 日本気象学会, 196pp.

次期医学系研究科長候補者の略歴等

(ふりがな) おおうち のりあき

候補者名：大内 憲明

任期：平成26年4月1日～平成27年3月31日（再任）

生年月日：昭和26年5月3日（満62歳）

出身地：福島県飯舘村

部局名：医学系研究科

所属専攻・学科名：医科学専攻

講座（部門）名：外科病態学講座（腫瘍外科学分野）

専門分野（専攻）名：外科学、腫瘍外科学、がん疫学、ナノ医科学

略歴：

昭和53年3月	東北大学医学部卒業	
昭和59年3月	東北大学大学院医学研究科修了（医学博士）	
昭和59年9月	米国N I H（客員研究員）	
昭和63年7月	東北大学医学部附属病院助手	
平成7年11月	東北大学医学部附属病院講師	
平成11年9月	東北大学大学院医学系研究科・教授	
平成14年11月	東北大学医学部附属病院副病院長	（平成16年11月まで）
平成18年4月	厚生労働省第3次対がん総合戦略研究事業「がん対策のための戦略研究」リーダー	（平成23年3月まで）
平成23年4月	東北大学病院がんセンター長	（平成24年3月まで）
平成24年4月	東北大学大学院医学系研究科長・医学部長	（平成26年3月まで）

主な研究班主催：

- 1995-06年度 厚生省（厚生労働省）がん研究助成金による研究班等の主任研究者を歴任
- 2002-08年度 厚生労働省科研費・萌芽的先端医療技術推進研究（ナノメディシン分野）主任研究者
- 2002-06年度 文科省・21世紀COEプログラム「バイオナノテクノロジー基盤未来医工学」事業推進者
- 2006-12年度 厚労省・第3次対がん総合戦略研究事業・がん対策のための戦略研究 リーダー
- 2007-11年度 文科省・グローバルCOE「新世紀世界の成長焦点に築くナノ医工学拠点」事業推進担当者
- 2010-14年度 経産省（NEDO）・がん超早期診断治療機器の総合研究開発「1粒子蛍光ナノイメージングによる超高精度がん組織診断システムの研究開発」主要研究者
- 2013-17年度 JSPS 日中韓 A3 フォーサイト事業「ナノバイオ材料を用いた高分解能イメージングによるがん生物学の主要分子機序の解明」研究代表者

主な受賞歴：

- 1985年 東北大学医学部奨学賞（銀賞）
- 1992年 第3回黒川利雄がん研究基金賞
- 1993年 第21回三越医学賞
- 1997年 第8回黒川利雄がん研究基金賞
- 1998年 東北大学医学部奨学賞（金賞）
- 2001年 第27回手術手技研究会奨励研究賞
- 2001年 第1回朝日がん大賞
- 2006年 日本医師会医学研究助成費賞
- 2012年 観光庁長官賞

著 書：

主な著書

- Ohuchi N, et al (total 7, 1st). Differential expression of DF3 antigen between papillary carcinoma and benign papillary lesions of the breast. In: R Ceriani (ed), Breast Cancer Immunodiagnosis and Therapy. Plenum Press, New York, 1989, pp. 183-192.
- Ohuchi N, et al (total 4, 1st). Advances in diagnosis of breast cancer: mammography for screening and MRI for breast-conserving surgery. R. Ros, T Kakizoe (eds), "Innovative achievements in cancer imaging". The 33rd International Symposium of the Princess Takamatsu Cancer Research Fund. pp. 30-34, 2003.
- Ohuchi N, et al (total 7, 1st). Development of bio-imaging with functional nano-objects. In: Yamaguchi T (ed.), Nano-Biomedical Engineering 2009, Proceedings of the Tohoku University Global Centre of Excellence Programme, Imperial College Press, pp. 361-372, 2009.
- Ohuchi N, et al (total 5, 1st). Nanomedicine in cancer: Development of fluorescence nano-imaging to visualize mechanism of cancer metastasis in vivo. Nano-Biomedical Engineering 2012, Proceedings of the Tohoku University Global Centre of Excellence Programme, Imperial College Press, pp. 531-542, 2012.
- 大内憲明（編）。実践デジタルマンモグラフィ：基礎から診断まで、中山書店、東京、2006
- 大内憲明（編）。乳癌：基礎・臨床研究のアップデート、日本臨床社、東京、2007
- 大内憲明（編）。マンモグラフィによる乳がん検診の手引き-精度管理マニュアル、第5版、日本医事新報社、東京、2011

主な原著論文：

- Ohuchi N, et al (total 3, 1st). Possible cancerous change of intraductal papillomas of the breast: a 3-D reconstruction of 25 cases. Cancer, 54: 605-11, 1984.
- Ohuchi N, et al (total 6, 1st). Expression of the 21,000 molecular weight ras protein in a spectrum of benign and malignant mammary tissues. Cancer Research, 46:2511-19, 1986.
- Ohuchi N, et al (total 9, 1st). Enhanced expression of c-Ha-ras p21 in stomach adenocarcinomas defined by immunoassays using monoclonal antibodies and in situ hybridization. Cancer Research, 47:1413-20, 1987.
- Ohuchi N, Page DL, et al (total 6, 1st). Expression of tumor-associated antigen (DF3) in atypical hyperplasias and in situ carcinomas of the breast. J Natl Cancer Inst, 79:109-17, 1987.

- Ohuchi N, Wunderlich D. et al (total 6, 1st). Differential expression of CEA in early gastric adenocarcinomas versus benign gastric lesions defined by monoclonal antibodies. *Cancer Research*, 47:3565-71, 1987.
- Ohuchi N, Simpson JF, et al (total 4, 1st). Complementation of anti-CEA and anti-TAG-72 monoclonal antibodies in reactivity to human gastric adenocarcinomas. *Int J Cancer*, 40:726-33, 1987.
- Ohuchi N, et al (total 3, 1st). Management of ductal carcinoma in situ with nipple discharge. *Cancer* 74:1294-1302, 1994.
- Kong D, Ohuchi N, et al (total 18, 10th) PTEN/MMAC1 is frequently mutated in primary endometrial carcinomas. *Nature Genetics*, 17: 143-44, 1997
- Amano G, Ohuchi N, et al (total 5, 2nd) Correlation of 3D-MRI with meticulous histopathologic map concerning carcinoma extension in 58 breast cancer patients. *Breast Cancer Res Treat*, 60:43-55, 2000.
- Nakajima M, Ohuchi N, et al (total 5, last) Nano-sized fluorescent particle as a new tracer for sentinel node detection. *Cancer Science*, 96 (6): 353-56, 2005.
- Tada H, Ohuchi N, et al (total 4, last). In vivo real-time tracking of single quantum dots conjugated with monoclonal anti-HER2 antibody in tumors of mice. *Cancer Research*, 67 (3): 1138-1144, 2007.
- Kawai M, Ohuchi N, et al (total 9, last). Effect of screening mammography on breast cancer survival in comparison to other detection methods: a retrospective cohort study. *Cancer Science*, 100 (8): 1479-84, 2009
- Gonda K, Ohuchi N, et al (total 4, 3rd). In vivo nano-imaging of membrane dynamics in metastatic tumor cells using quantum dots. *J Biol Chem*, 285: 2750-2757, 2010
- Saika K, Ohuchi N, et al (total 4, 3rd). Breast cancer screening. *Ann Intern Med*. 153 (9): 618-19, 2010.
- Ohuchi N, et al (total 6, 1st). Randomized Controlled Trial on Effectiveness of Ultrasonography Screening for Breast Cancer in Women Aged 40-49 (J-START): Research Design. *Jpn J Clin Oncol*. 41: 275-77, 2011.
- Hamada Y, Ohuchi N, et al (total 8, last). In vivo imaging of the molecular distribution of the VEGF receptor during angiogenesis in a mouse model of ischemia. *Blood*. 2011 Sep 29; 118 (13): e93-e100.
- Gonda K, Ohuchi N, et al (total 10, last). Development of a quantitative diagnostic method of estrogen receptor expression levels by immunohistochemistry using organic fluorescent material-assembled nanoparticles. *Biochem Biophys Res Commun*, 2012;426(3):409-14. doi: 10.1016/j.bbrc.2012.08.105.
- Sato-Tadano A, Ohuchi N, et al (total 10, last). Hexokinase II in breast carcinoma: a potent prognostic factor associated with hypoxia-inducible factor 1 α and Ki-67. *Cancer Sci*, 104:1380-1388, 2013
- Satoh K, Ohuchi N, et al (total 8, last). Development of a quantitative diagnostic method for determining the histone modification levels in breast cancer tissues using quantum dots. *Nano Letters*, in press.
- Niizuma N, Ohuchi N, et al (total 8, last). Quantitative Analysis of HER3 Expression in Human Breast Cancer Tissue using Fluorescence In Situ Hybridization and Immunohistochemistry. *PLoS ONE*, in press.
- Nakagawa T, Ohuchi N, et al (total 10, last). Effects of silica-shell thickness on the photostability of QD/SiO₂ core-shell nanoparticles used for fluorescence imaging of sentinel lymph nodes. *Biochem Biophys Res Commun*, in press.
- Miyashita M, Ohuchi N, et al (total 9, last). The clinical significance of breast MRI in the management of ductal carcinoma in situ diagnosed on needle biopsy. *Jap J Clinical Oncol*, in press, 2013

次期歯学研究科長候補者の略歴等

(ふりがな) ささき けいち

候補者名：佐々木 啓 一

任 期：平成26年 4月 1日～平成28年 3月31日（再任）

生年月日：昭和31年 9月24日（満57歳）

出身地：宮城県仙台市

部 局 名：歯学研究科

所属専攻・学科名：歯科学専攻

講 座（部 門）名：口腔機能形態学講座口腔システム補綴学分野

専門分野(専攻)名：歯科補綴学

略 歴：

昭和56年 3月	東北大学歯学部卒業	
昭和60年 3月	東北大学大学院歯学研究科博士課程修了	
昭和60年 4月	東北大学歯学部助手	
平成 3年10月	東北大学歯学部講師	
平成 6年 4月	東北大学歯学部助教授	
平成12年 2月	東北大学歯学部教授	
平成12年 4月	東北大学大学院歯学研究科教授	
平成16年 4月	東北大学大学院歯学研究科副研究科長・歯学部副学部長	(平成21年1月31日まで)
平成21年 2月	東北大学病院附属歯科医療センター長	(平成22年3月31日まで)
平成21年 2月	東北大学病院総括副病院長	(平成22年3月31日まで)
平成22年 4月	東北大学大学院歯学研究科長・歯学部長	(平成24年3月31日まで)
平成24年 4月	東北大学大学院歯学研究科長・歯学部長	(平成26年3月31日まで)

主な研究業績：

- 欠損歯列補綴・顎顔面再建治療における新生体材料の開発と応用、新インターフェース創成に関する研究
- 生体内測定に基づく部分床義歯補綴・インプラント補綴に関する生体力学的検討
- 部分床義歯補綴・インプラント補綴に関わる骨改造機転に関する核医学的、組織学的、分子生物学的研究
- 欠損補綴・顎顔面再建治療における移植・再生の応用に関する研究
- 部分床義歯・インプラント義歯の長期予後に関する研究

受賞歴：

- 日本顎口腔機能学会 学会賞（2008年4月）

著 書：

- パーシャルデンチャーテクニック【第4版】（平成20年9月10日）
- スタンダード部分床義歯補綴学（平成18年3月20日）
- よくわかる口腔インプラント学（平成17年5月15日）
- 目で見る咬合の基礎知識（平成14年6月25日）
- 有病者・高齢者歯科治療マニュアル（平成8年2月10日）

次期薬学研究科長候補者の略歴等

(ふりがな) やまぐち まさひこ

候補者名：山口 雅彦

任 期：平成26年 4月 1日～平成28年 3月 31日 (新任)

生年月日：昭和29年12月27日 (満59歳)

出身地：福岡県

部 局 名：薬学研究科

所属専攻・学科名：大学院薬学研究科分子薬科学専攻

講 座 (部 門) 名：分子制御化学講座分子設計化学分野

専門分野(専攻)名：有機化学

略 歴：

昭和52年 3月	東京大学理学部化学科卒業	
昭和54年 3月	東京大学大学院理学系研究科修士課程修了	
昭和57年 3月	東京大学大学院理学系研究科博士課程修了	
昭和57年 4月	九州工業大学工学部助手	
昭和60年 8月	九州工業大学工学部助教授	
平成 3年 3月	東北大学理学部助教授	
平成 7年 4月	東北大学大学院理学研究科助教授	
平成 9年 3月	東北大学薬学部教授	
平成11年 4月	東北大学大学院薬学研究科教授	
平成11年 4月	東北大学薬学部薬学科長	(平成12年3月まで)
平成18年 4月	東北大学薬学部創薬学科長	(平成19年9月まで)
平成18年12月	東北大学大学院理学研究科教授併任	(平成24年3月まで)
平成19年10月	東北大学原子分子材料科学高等研究機構教授	
平成24年 4月	東北大学大学院薬学研究科教授	

主な研究業績： 高効率有機合成反応の開発、ラセン有機分子の合成と機能

受賞歴： 有機合成化学協会賞 (2008年)

次期工学研究科長候補者の略歴等

(ふりがな) かない ひろし

候補者名：金井 浩

任 期：平成26年 4月 1日～平成27年 3月 31日 (再任)

生年月日：昭和33年11月29日 (満55歳)

出身地：長野県松本市

部 局 名：工学研究科

所属専攻・学科名：電子工学専攻・情報知能システム総合学科

講 座 (部 門) 名：電子制御工学講座

専門分野(専攻)名：医用超音波工学

略 歴：

昭和61年 3月	東北大学大学院工学研究科博士課程修了	
昭和61年 4月	東北大学情報処理教育センター 助手	
昭和64年 1月	東北大学工学部 助手	
平成 2年 3月	東北大学工学部 講師	
平成 4年 6月	東北大学工学部 助教授	
平成 9年 4月	東北大学大学院工学研究科 助教授	
平成13年 3月	東北大学大学院工学研究科 教授	(現在に至る)
平成18年11月	国立大学法人東北大学総長特任補佐	(平成22年3月まで)
平成20年 4月	東北大学大学院医工学研究科 教授 兼担	(現在に至る)
平成21年 4月	東北大学大学院工学研究科副研究科長	(平成24年3月まで)
平成24年 4月	東北大学大学院工学研究科長・工学部長	(現在に至る)
平成24年 4月	国立大学法人東北大学総長補佐	(現在に至る)
平成24年 4月	国立大学法人東北大学経営協議会委員	(現在に至る)
平成25年 4月	東北大学未来科学技術共同研究センター長	(現在に至る)

主な研究業績：

超音波計測工学とその医学応用(特に循環器系疾患)への研究等に従事。超音波による高精度非侵襲的計測法の研究開発により、(1) ヒト心臓壁で微小振動の発生と伝播の生理現象を発見、(2) 1拍内に動脈壁に微小な厚み変化が生じる生理現象を発見し、壁硬さを求め、動脈硬化診断装置の実用化。

受賞歴：

石川賞(昭62)、IBM 科学賞(平13)、科学計測振興会賞(平15)、文部科学大臣表彰科学技術賞研究部門(平17)、日本超音波医学会技術賞(平17)、市村学術賞(平19)、日本超音波医学会松尾賞(平20)、中谷賞(平20)、日本超音波医学会・日本音響学会・超音波シンポジウムなど論文賞(平7、8、10、12、19、22)

著 書：

- 『C による情報処理入門』 昭晃堂、共著
- 『音・振動のスペクトル解析』 コロナ社、単著
- 『音・振動による診断工学』 コロナ社、共著
- “Ultrasonic Tissue Characterization” Springer-Verlag、共著 ほか

次期情報科学研究科長候補者の略歴等

(ふりがな) とくやま たけし

候補者名：徳山 豪

任期：平成26年4月1日～平成28年3月31日（新任）

生年月日：昭和32年1月22日（満57歳）

出身地：京都府京都市

部局名：情報科学研究科

所属専攻・学科名：システム情報科学専攻

講座（部門）名：生体システム情報学

専門分野（専攻）名：情報システム評価学

略歴：

昭和60年3月	東京大学大学院理学系研究科数学専攻博士課程修了	
昭和60年4月	東京大学大学院理学系研究科大学院研究生	（昭和61年11月まで）
昭和61年12月	日本アイ・ビー・エム株式会社入社、東京基礎研究所研究員	
平成4年4月	IBM T. J. Watson 研究所リサーチスタッフメンバー	（国際異動）
平成5年4月	日本アイ・ビー・エム株式会社、東京基礎研究所研究員	（国際異動）
平成11年9月	東北大学大学院情報科学研究科教授	
平成20年4月	東北大学大学院情報科学研究科研究科長補佐	（平成22年3月まで）
平成22年4月	東北大学大学院情報科学研究科副研究科長	（平成26年3月まで）
平成24年4月	国立大学法人東北大学教育研究評議会評議員	（平成26年3月まで）

主な研究業績：

[研究論文]

- 計算幾何学に関する理論研究と新規応用分野の開拓
- アルゴリズム理論の研究とその応用
- データマイニングにおける先駆的研究

受賞歴：

- 平成4年度情報処理学会研究賞
- 平成9年度ISAAC国際会議最優秀論文賞
- 平成9年度情報処理学会ベストオーサー賞
- 平成12年度大川情報通信基金研究助成賞
- 平成12年度IBM科学賞
- 平成16年度船井情報科学振興賞
- 平成22年度情報処理学会フェロー
- 平成24年度電気通信情報学会フェロー

著 書：

- 離散構造とアルゴリズム I、近代科学社、平成 4 年（共著）
- はみだし幾何学 岩波書店、岩波科学ライブラリ 18、平成 6 年
- データマイニング 共立出版、平成 13 年（共著）
- 離散数学とその応用 数理工学社 平成 15 年
- オンラインアルゴリズムとストリームアルゴリズム 共立出版、平成 19 年

次期環境科学研究科長候補者の略歴等

(ふりがな) よしおか としあき

候補者名：吉岡敏明

任期：平成26年4月1日～平成28年3月31日（新任）

生年月日：昭和38年4月13日（満50歳）

出身地：宮城県

部局名：環境科学研究科

所属専攻・学科名：環境科学専攻

講座（部門）名：資源環境プロセス学講座

専門分野（専攻）名：リサイクル化学分野

略歴：

昭和63年3月	東北大学工学部卒業	
平成2年3月	東北大学大学院工学研究科博士課程前期2年の課程修了	
平成4年4月	東北大学工学部助手	
平成8年3月	博士（工学）（東北大学）取得	
平成9年4月	東北大学大学院工学研究科講師	
平成12年10月	東北大学大学院工学研究科助教授	
平成14年4月	東北大学超臨界溶媒工学研究センター助教授	
平成16年4月	東北大学環境保全センター助教授	
平成17年4月	東北大学大学院環境科学研究科教授	
平成23年4月	国立大学法人東北大学教育研究評議会評議員	（平成26年3月まで）
平成23年4月	国立大学法人東北大学総長特任補佐	（平成24年3月まで）
平成24年7月	国立大学法人東北大学総長特別補佐	（平成26年3月まで）

主な研究業績：

1. G. Grause, A. Buekens, Y. Sakata, A. Okuwaki, T. Yoshioka, "Feedstock recycling of waste polymeric material", Journal of Material Cycles and Waste Management, vol.13, p265-282, (2011).
2. T. Kameda, A. Kodama, Y. Fubasami, S. Kumagai, T. Yoshioka, "Removal of SO₂ with a Mg-Al oxide slurry via reconstruction of a Mg-Al layered double hydroxide", Chemosphere, **88**, 250-254 (2012).
3. H. Akiho, S. Ito, H. Matsuda, T. Yoshioka, "Elucidation of the Mechanism of Reaction between S₂O₈²⁻, Selenite and Mn²⁺ in Aqueous Solution and Limestone-Gypsum FGD Liquor", Environ. Sci. Technol., **47**, 11311-11317 (2013). 他

受賞歴：

- 第11回リサイクル技術開発本多賞（平成19年）
- プラスチック化学リサイクル研究会研究進歩賞（平成20年）
- The Japan Society of Material Cycles and Waste Management, Best Paper Award（平成24年） 他

著 書：

1. 「災害廃棄物分別・処理実務マニュアル」、株式会社ぎょうせい（2012）、(執筆担当部分) 2-7、2-9、2-12、3-1、3-3、おわりに、全体監修.
2. 「「環境・安全・衛生」大学のアピール」、三共出版（2006）、(執筆担当部分) 第1章（大学の社会的責任）、第5章（環境・エネルギーマネジメントシステム）.
3. 「Feedstock Recycling and Pyrolysis of Waste Plastics」、Wiley Series in Polymer Science, published by John Wiley (UK),(2006)（執筆担当部分）The feedstock recycling of PET. 他

次期医工学研究科長候補者の略歴等

(ふりがな) いずみ しんいち

候補者名：出江 紳一

任 期：平成26年 4月 1日～平成28年 3月31日 (新任)

生年月日：昭和33年 2月17日 (満56歳)

出身地：神奈川県横浜市

部 局 名：医工学研究科

所属専攻・学科名：医工学専攻

講 座 (部 門) 名：社会医工学講座

専門分野(専攻)名：リハビリテーション医工学分野

略 歴：

昭和58年 3月	慶応義塾大学医学部卒業	
昭和58年 5月	慶応義塾大学病院研修医 (理学診療(リハビリテーション)科)	
昭和63年 5月	慶応義塾大学月が瀬リハビリテーションセンター助手	
平成11年 4月	東海大学医学部リハビリテーション学助教授	
平成14年 8月	東北大学大学院医学系研究科教授	
平成20年 4月	東北大学大学院医工学研究科教授	
	東北大学大学院医工学研究科副研究科長	(平成23年3月まで)
平成23年 4月	国立大学法人東北大学教育研究評議会評議員	(平成26年3月まで)

学位 平成5年10月18日 博士(医学) (慶應義塾大学)

主な研究業績：

中枢神経疾患による運動障害のリハビリテーション治療を革新する経頭蓋磁気刺激治療を創出した他、運動調節の機序や運動障害からの回復過程の解明に貢献した。さらに、上記の回復原理に基づいて、リハビリテーション治療機器の開発を行った。一方で、医療コミュニケーションに対する実証的研究を遂行し、神経難病患者に対する医療面接技術の有効性、介護予防に携わる保健師職に対する研修の有効性等を明らかにした。これらの成果は、保健・医療・福祉の領域から注目されている。

受賞歴：

- 日本臨床神経生理学会 第12回奨励論文賞 (2010年)

著 書：

1. 出江紳一：回復する身体と脳、中央法規、2009
2. 出江紳一 (編著)：リハスタッフのためのコーチング活用ガイド、医歯薬出版、2009

次期教育情報学研究部長候補者の略歴等

(ふりがな) わたべ しんいち

候補者名：渡部 信一

任期：平成26年4月1日～平成28年3月31日（再任）

生年月日：昭和32年6月12日（満56歳）

出身地：宮城県仙台市

部局名：教育情報学研究部

所属専攻・学科名：

講座（部門）名：IT教育認知科学研究部門

専門分野（専攻）名：認知科学、教育情報学

略歴：

- | | |
|---------|---|
| 昭和58年3月 | 東北大学大学院教育学研究科博士課程前期2年の課程修了
(教育心理学専攻) |
| 昭和58年4月 | 国立療養所宮城病院 |
| 昭和63年1月 | 福岡教育大学教育学部附属障害児治療教育センター助手 |
| 平成元年4月 | 福岡教育大学教育学部附属障害児治療教育センター講師 |
| 平成5年4月 | 福岡教育大学教育学部附属障害児治療教育センター助教授 |
| 平成10年4月 | 東北大学教育学部助教授 |
| 平成12年4月 | 東北大学大学院教育学研究科助教授 |
| 平成14年4月 | 東北大学大学院教育情報学研究部教授 |
| 平成20年4月 | 東北大学大学院教育情報学研究部長・教育部長 (現在まで) |

主な研究業績：

- 渡部信一(2010)：高度情報化時代における「教育」再考. 教育学研究. 77(4),14-26.
- 渡部信一(2012)：超デジタル時代における「学び」とテクノロジーの新たな関係.
コンピュータ利用教育学会誌「コンピュータ&エデュケーション」. Vol.32, 10-15.

著書：

- 渡部信一編 佐伯胖監修(2010)：「学び」の認知科学事典. 大修館書店.
- 渡部信一(2012)：超デジタル時代の「学び」. 新曜社.
- 渡部信一(2013)：日本の「学び」と大学教育. ナカニシヤ出版.

次期金属材料研究所長候補者の略歴等

(ふりがな) たかなし こうき

候補者名：高 梨 弘 毅

任 期：平成 26 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日（新任）

生年月日：昭和 33 年 6 月 20 日（満 55 歳）

出身地：東京都江戸川区

部 局 名：金属材料研究所

所属専攻・学科名：

講 座（部 門）名：磁性材料学研究部門

専門分野(専攻)名：磁性材料学

略 歴：

昭和 61 年 3 月	東京大学大学院理学系研究科物理学専門課程博士課程修了	
昭和 61 年 4 月	東北大学金属材料研究所 助手	
平成 6 年 2 月	東北大学金属材料研究所 助教授	
平成 12 年 11 月	東北大学金属材料研究所 教授	
平成 21 年 11 月	国立大学法人東北大学教育研究評議会評議員	(平成 27 年 3 月まで)
平成 21 年 11 月	東北大学金属材料研究所副研究所長	(平成 26 年 3 月まで)

主な研究業績：

- 金属人工格子の界面磁性
 - 金属人工格子の垂直磁気異方性、層間交換結合および巨大磁気抵抗効果
 - ナノ構造磁性体におけるスピン依存伝導
 - 単原子層積層制御人工規則合金の開発と評価
 - 規則合金スピントロニクス材料の研究
 - スピン流の創出と制御（科研費特定領域代表）
- など

受賞歴：

- 昭和 62 年 7 月：金属研究助成会 研究奨励賞
 - 平成 9 年 11 月：金属研究助成会 金属材料科学助成賞
 - 平成 14 年 5 月：インテリジェントコスモス奨励賞
 - 平成 15 年 3 月：日本金属学会 第 61 回功績賞
 - 平成 16 年 9 月：日本応用磁気学会 第 1 回優秀研究賞
 - 平成 21 年 9 月：応用物理学会 第 31 回論文賞（解説論文賞）
 - 平成 22 年 3 月：日本金属学会 第 17 回増本量賞
 - 平成 23 年 9 月：平成 23 年度日本磁気学会出版賞
 - 平成 24 年 9 月：平成 24 年度日本磁気学会論文賞
 - 平成 25 年：2013 Distinguished Lecturer, IEEE Magnetics Society,
- など

著 書 :

1. 実験物理学講座 6 磁気測定 I, 丸善(株), 2000, (共著)
2. Novel Nanocrystalline Alloys and Magnetic nanomaterials, Ed. B. Cantor, IOP, 2004, (共著)
3. Handbook of Magnetism and Advanced Magnetic Materials, Eds., H. Kronmüller and S. Parkin, John Wiley & Sons Ltd., 2007, (共著)
4. 現代講座・磁気工学 1, 共立出版, 2008, (共著)
5. スピントロニクス基礎と材料・応用技術の最前線, シーエムシー出版, 2009, (監修・共著)
6. ブルーバックス 金属材料の最前線, 講談社, 2009, (共著)
7. Handbook of nanophysics, Nanoparticles and quantum dots, Eds., Klaus D. Sattler, CRC Press, Taylor & Francis Group, 2010, (共著)
8. 機能材料としてのホイスラー合金, 内田老鶴圃, 2011, (共著)
9. Spin Current, Eds., S. Maekawa, S. O. Valenzuela, E. Saitoh and T. Kimura, Oxford University Press, 2012, (共著)
11. 改訂磁気工学の基礎と応用 (電気学会マグネティクス技術委員会編), コロナ社 2013, (共著)

など

次期加齢医学研究所長候補者の略歴等

(ふりがな) かわしま りゅうた

候補者名：川島 隆太

任 期：平成26年 4月 1日～平成29年 3月31日（新任）

生年月日：昭和34年 5月23日（満54歳）

出身地：千葉県千葉市

部 局 名：加齢医学研究所

所属専攻・学科名：

講 座（部 門）名：附属スマート・エイジング国際共同研究センター研究開発部門
応用脳科学研究分野

専門分野(専攻)名：脳機能イメージング、脳機能開発

略 歴：

昭和60年 3月 東北大学医学部卒業
平成 元年 3月 東北大学大学院医学研究科修了（医学博士）
平成 3年 7月 スウェーデン王国カロリンスカ研究所（客員研究員）
平成 5年 7月 東北大学加齢医学研究所助手
平成10年 6月 東北大学加齢医学研究所附属病院講師
平成12年 4月 東北大学医学部附属病院講師
平成13年 4月 東北大学加齢医学研究所教授
平成13年 5月 東北大学未来科学技術共同研究センター教授
平成18年 4月 東北大学加齢医学研究所教授
平成20年 4月 東北大学ディステイニングイッシュトプロフェッサー（平成23年3月まで）
平成21年10月 東北大学加齢医学研究所附属スマート・エイジング国際共同研究センター教授
平成21年10月 東北大学加齢医学研究所附属スマート・エイジング国際共同研究センター長
（平成26年3月まで）

主な研究業績：

高次認知機能の脳イメージング研究、動物モデルを用いた脳循環・代謝研究、健常小児の脳機能発達と生活習慣の関連の解明、認知症の症状を緩和する「学習療法」の開発、認知介入や運動介入によるスマート・エイジングの具現化、超小型近赤外分光装置の開発

受 賞 歴：

- 第34回日本核医学会賞
- 平成20年度「情報通信月間」総務大臣表彰
- 平成21年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞
- 平成21年度井上春成賞
- 第62回河北文化賞、 他

著 書：

- 「スマート・エイジング」という生き方 扶桑社新書（2012）
- 元気な脳が君たちの未来をひらく くもん出版（2012）
- さらば脳ブーム 新潮新書（2010）、 他多数

次期流体科学研究所長候補者の略歴等

(ふりがな) おおばやし しげる

候補者名：大林 茂

任 期：平成 26 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日（新任）

生年月日：昭和 35 年 1 月 24 日（満 54 歳）

出身地：神奈川県横浜市

部 局 名：流体科学研究所

所属専攻・学科名：

講 座（部 門）名：流動創成研究部門航空宇宙流体工学研究分野

専門分野(専攻)名：航空宇宙工学

略 歴：

昭和 62 年 3 月	東京大学大学院工学系研究科博士課程修了	
昭和 62 年 4 月	米国航空宇宙局エイムズ研究所 米国国立研究審議会客員研究員	
平成 元年 4 月	エムキャット研究所上級研究員	
平成 6 年 4 月	東北大学工学部助教授	
平成 12 年 7 月	東北大学流体科学研究所助教授へ配置換	
平成 15 年 4 月	東北大学流体科学研究所教授	
平成 20 年 4 月	東北大学流体科学研究所附属流体融合研究センター長	(平成 25 年 3 月まで)
平成 23 年 4 月	国立大学法人東北大学総長特任補佐	(平成 24 年 3 月まで)
平成 24 年 7 月	国立大学法人東北大学総長特別補佐	(平成 26 年 3 月まで)
平成 25 年 4 月	東北大学流体科学研究所次世代流動実験研究センター長	

主な研究業績：

数値流体力学の高度化と進化計算法の応用を専門とし、中でも多目的最適化法とデータマイニングを合わせた多目的設計探査の研究は、三菱重工業株式会社との共同研究を通じて技術移転がなされ、国産旅客機三菱リージョナルジェット (MRJ) の事業化に大いに貢献した。その研究成果は航空宇宙分野にとどまらず、機械工学、計算力学やソフトコンピューティング、設計工学の分野に大きなインパクトを与えている。また、超音速複葉機の提案と実験と計算の両面からの研究も注目を集めている。学会活動では、自分で主宰する 2 つの研究会の他、航空宇宙学会理事・空力部門長、機械学会計算力学部門長、進化計算法学会副会長（次期会長の予定）などを歴任しており、複数の学会で指導的立場にある。PROGRESS IN AEROSPACE SCIENCES 等の国際学術誌の編集委員も複数務めている。文部科学省の航空科学技術委員会委員も務めた（2006.1～2013.1）。

受賞歴：

平成 元年 2 月 スペースシャトル復帰に対する功績 NASA Group Achievement Award（米国航空宇宙局グループ研究賞）J. Steger 他 10 名のチーム（大林もメンバー）

- 平成 5 年 8 月 Ames 研究所に対する学術上の貢献 Ames Honor Award (米国航空宇宙局 エイムズ研究所栄誉賞) 大林 茂
- 平成 10 年 10 月 OVERSET Tools for CFD Analysis, NASA's 1998 Software of the Year Award, (Honorable Mention) (米国航空宇宙局 1998 年度ソフトウェア賞佳作) P. Buning 他 9 名のチーム (大林もメンバー)
- 平成 14 年 11 月 数値流体力学への貢献 日本機械学会計算力学部門 2002 年度業績賞 大林 茂
- 平成 20 年 3 月 「進化型多目的最適化技術の研究と流体設計への応用」 2007 年度日本機械学会船井賞 大林 茂
- 平成 20 年 5 月 「没入的仮想環境を用いた仙台空港における後方乱気流の視覚解析のグラフィックス」 第 13 回計算工学講演会グラフィックスアワード特別賞 三坂孝志, 大林 茂
- 平成 21 年 3 月 「ターボ機械の多目的ロバスト設計探査」 平成 20 年度日本機械学会東北支部技術研究賞 杉村 和之, 鄭 信圭, 大林 茂
- 平成 21 年 5 月 計算工学の進歩における若手研究者の貢献 日本計算工学会平成 20 年度川井メダル受賞 大林 茂
- 平成 22 年 4 月 「Kriging-Model-Based Multi-Objective Robust Optimization and Trade-Off Rule Mining of a Centrifugal Fan with Dimensional Uncertainty Journal of Computational Science and Technology」, 3 巻, 1 号 (2009 年 2 月) 日本機械学会賞 (論文) 受賞, 杉村 和之, 鄭 信圭, 大林 茂, 木村 剛
- 平成 24 年 10 月 計算力学と計算力学部門への貢献 日本機械学会計算力学部門 2012 年度功績賞 大林 茂

著 書 :

1. Peter M. Goorjian, Shigeru OBAYASHI, Neal M. Chaderjian and Guru P. Guruswamy, "ALGORITHM DEVELOPMENT WITH APPLICATIONS TO AERODYNAMICS AND AEROELASTICITY," VKI Lecture Course, 1992.
2. S. Obayashi, "Aerodynamic Optimization with Evolutionary Algorithms," VKI Lecture Course, April 1997.
3. S. Obayashi, "Target Pressure Optimization Using MOGA" VKI Lecture Course, April 1997.
4. Obayashi, S., "Aerodynamic inverse optimisation problems (chapter 9)," in Zalzal, A. M. S. and Fleming, P. J. (Eds.), Genetic algorithms in engineering systems, IEE, London, pp. 203-228, September 1997.

次期災害科学国際研究所長候補者の略歴等

(ふりがな) いまむら ふみひこ

候補者名：今村文彦

任期：平成26年4月1日～平成29年3月31日（新任）

生年月日：昭和36年9月24日（満52歳）

出身地：山梨県

部局名：災害科学国際研究所

所属専攻・学科名：

講座（部門）名：災害リスク研究部門

専門分野（専攻）名：津波工学研究分野

略歴：

平成元年 3月	東北大学大学院工学研究科博士後期課程修了	
平成元年 4月	東北大学工学部 助手	
平成 4年 12月	東北大学工学部 助教授	
平成 12年 8月	東北大学大学院工学研究科 教授	
平成 16年 4月	東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター長	(平成18年3月まで)
平成 22年 4月	東北大学大学院工学研究科附属災害制御研究センター長	(平成24年3月まで)
平成 24年 4月	東北大学災害科学国際研究所 教授	(現在に至る)
平成 24年 4月	東北大学災害科学国際研究所副研究所長	(現在に至る)
平成 24年 4月	国立大学法人東北大学総長特別補佐	(現在に至る)

主な研究業績：

数値シミュレーションを利用した警報システムの検討、津波防災技術の開発や地域での防災教育の展開、津波来襲時などでの住民避難シミュレーション開発など。ユネスコなどと共同で実施している津波数値解析についての国際プロジェクトである TIME の代表者である。2004年スマトラ沖地震・インド洋大津波の発生後、世界中で現地調査や復旧・復興のアドバイスなどを行っている。東日本大震災後には政府の復興構想会議・中央防災会会議専門委員会のメンバーである。

受賞歴：

日本自然災害学会 学術賞（H11）、The finalist of The 2003 Descartes Prize Awards（H15）、土木学会海岸工学論文賞（H18）、土木学会論文賞（H22）、土木学会出版文化賞（H22）、日本地質学会論文賞（H22）、第1回気象文化大賞金賞（H22）、Coastal Engineering Journal Award（H12、H23） 他6件

著 書：

- 『Tsunamis: 1992-94, their Generation, Dynamics, and Hazards』 Birhauser 出版、共編
- 『津波の事典』 朝倉出版、共編
- 『The Sea : Tsunamis』 Harvard Univ.Press 出版、共著
- 『防災教育の展開』 東信堂、監修 他